

イギリス（バロック）式ソプラノリコーダーの有用性と導入指導 —小学校第3学年での実践—

平出久美子¹・金澤 伊織²・森下 修次

1 研究の背景と目的

小学校第3学年からソプラノリコーダーを活用した教材が教科書に掲載され、児童らは期待感を高め練習を始める。次第に技能習熟に個人差が生まれ、学習意欲が低下する児童が生じる。山中・庭田（2012）は、ソプラノリコーダー指導の一般的な課題として、技術注入主義の傾向が強く、子供たちの積極的・主体的な取組を阻害しかねない、機械的な技術習得が主な活動になってしまうと指摘している。平井（2017）は、中学校でイギリス式（バロック式）リコーダー習得が困難で苦手意識のある生徒が増えるのは、小学校でのイギリス式への苦手意識を持ったか、あるいはドイツ式（ジャーマン式）を使用していた児童が、中学校で運指につまずくと指摘している。

本研究の目的は、リコーダーの使用状況を調査し、イギリス式ソプラノリコーダーの有用性を明らかにすると共に、意欲喚起と技能習熟を目指した導入指導について実践を行った。

2 ソプラノリコーダー使用状況調査の実施

新潟大学教育学部の学生90名を対象に、小学校時代に使用していたリコーダーの種類をアンケート調査した。結果は図1の通りである。

イギリス式とドイツ式どちらも5割程度であった。さらに、都道府県別に分析すると、新潟県では、イギリス式で学習した学生が7割を占めていた。一方、山形はイギリス式の回答がないことから、地域により差があるのではないかと推察される。

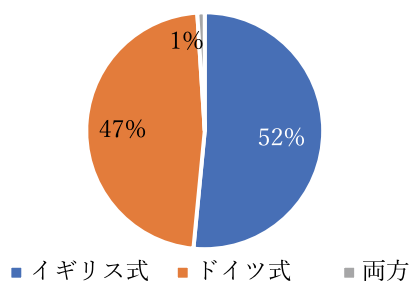


図1「小学生時代に使用していたリコーダーの種類」アンケート結果

表1「都道府県別リコーダー使用状況」アンケート結果

都道府県	イギリス式	ドイツ式
新潟県	42	19
長野県	2	0
愛知県	1	0
山形県	0	7
福島県	1	2
秋田県	0	1
静岡県	1	2
石川県	1	2
茨城県	1	2
沖縄県	0	1
富山県	0	1
岡山県	0	1
群馬県	0	2
宮城県	0	1
京都府	0	1
千葉県	0	1
栃木県	0	2
合計	49	24

2021.10.25 受理

¹ 新潟大学附属長岡小学校

² 十日町市立田沢小学校

世界と日本のリコーダー種類別使用状況を調査したところ、以下の結果が明らかになった。

リコーダー販売業者A社によると、世界の主要地域のリコーダー種類別使用状況は、イギリス式とドイツ式の割合はどちらも5割を占めている。イギリス式が9割を占める国もあり、大多数の国はイギリス式が5割以上を占めていることが分かった。その中で、日本はイギリス式の使用率が1割程度であり、世界主要地域の中で極めて少なかった。

日本全国では、ドイツ式が全体の9割近く採用されているが、新潟県は過去においてはイギリス式が7割採用されていることが分かった。次第にドイツ式が逆転し、現在はドイツ式が7割以上を占めており、完全に逆転している。特に、平成26年から27年にかけて急速にドイツ式が2割も増加している。特に新潟市でのドイツ式の増加が著しいことから、音楽関係者から運指の容易なドイツ式を斡旋された等の働きかけがあったことが推察される。新潟県リコーダー教育研究会が現場で指導し、本来の姿であるイギリス式のリコーダーを、勤務校や近隣校の教師に音楽部会等でも広く勧めていたことが大きく働いていたと考える。現在、そのような働きかけの機会の減少していることも要因の一つと考えられる。イギリス式を採用している学校は、上位機種を使用していることも分かった。

新潟県中越・下越地域の音楽主任を対象に、ソプラノリコーダー使用状況、選定基準、指導における課題を調査した。回答のあった学校は新潟県内小学校227校で内訳は表2の通りである。

表2 中越・下越地区のリコーダー使用調査校

市町村	学校数(校)	市町村	学校数(校)
新潟市	71	五泉市	5
長岡市	42	阿賀野市	4
三条市	15	村上市	3
柏崎市	16	聖籠町	3
南魚沼市	12	胎内市	3
佐渡市	10	加茂市	2
燕市	9	阿賀町	2
十日町市	8	魚沼市	2
新発田市	7	出雲崎町	1
小千谷市	6	弥彦村	1
見附市	5	合計	227

結果は、令和2年度採用、令和3年度購入予定共に、イギリス式が3割、ドイツ式が7割であった(図2)。新潟大学教育学部学生のアンケート調査から、新潟県出身大学生の小学校時代(約10年前)は、ドイツ式の使用率が高かったが、現在はイギリス式

の使用率が高くなっていることがわかった。

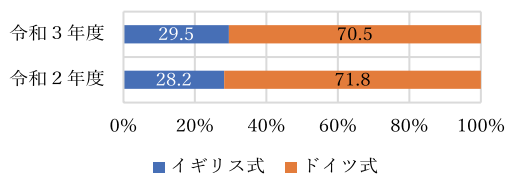


図2 「令和2年度、令和3年度購入予定のリコーダーの種類」アンケート結果

イギリス式を採用した理由として、「昨年と同様に選んだ」学校が最も多く、55校であった。選択理由として、イギリス式のよさや価値を理解して選択しているかは不明である。次いで、「中学校のアルトリコーダーにつなげる」が24校であった。これは、小学校から中学校へ指導の連続性を意識して採用していることが分かる。さらに、「音色のよさ」から選択している学校が9校あり、指導しやすさではなく、イギリス式の価値を理解して選定していることが分かる。少数ではあるが「業者から勧められた」「県リコーダー教育研究会からの推進」という回答もあり、他者からの推薦により選定している学校があることが分かった。

表3 「イギリス式を採用した理由」アンケート結果

理由	学校数(校)
昨年と同様に選んだ	55
中学校のアルトリコーダーにつなげる	24
音色のよさ	9
業者に勧められた	4
リコーダー部でソプラノ以外も使用する	1
県リコーダー教育研究会が推進している	1
お下がりがイギリス式だった	1
音楽主任異動の為不明	1

ドイツ式を採用した理由として、「ファ」の運指が容易であることが128校と最も多く、次いで「昨年と同様に選んだ」が122校であった(表4)。指導の容易さが重視されていることが分かる。また、業者に勧められて選択した学校は、ドイツ式が15校、イギリス式が4校であった。このことから、販売業者でドイツ式を推奨している割合が多いことが伺える。さらに、教科書を基準としてドイツ式を選定している学校は4校あった。教科書では、教育芸術社、教育出版共に、ドイツ式を基準とした運指で記載されており、イギリス式は注釈のような扱いとなって

いる。音色のよさで選定している学校はなかった。

表4 「ドイツ式を採用した理由」 アンケート結果

理由	学校数(校)
「ファ」の運指が容易である	128
昨年と同様に選んだ	122
業者に勧められた	15
教科書に合わせた	5
合奏で複数楽器を演奏することがない	1
音色のよさ	0

リコーダー指導において困難を感じていることとして、最も多かった回答は「習熟に差がある」ことであった(表5)。次いで「技能を向上させる効果的な指導方が分からない」「習熟度に合う適切な教材がない」「学習意欲を高められない」の順に多かった。

表5 「リコーダー指導において困難に感じていること」 アンケート結果

理由	学校数(校)
習熟に差がある	196
技能向上の効果的な指導法が分からない	85
子供の習熟度に合う適切な教材がない	25
子供の学習意欲を高められない	18
特になし	11
指が届かない子供がいる	3
不器用な子への指導	3
コロナ禍における指導	2
複式学級での指導	2
音楽・リコーダー授業の時数確保が困難	2
タンギングがうまくできない	1
適切な評価方法	1
イギリス式への賛同が得られない	1

このことから、指導にあたる教師自身が指導法や教材選定に困難さを感じていることが分かる。教科書教材を今一度見直し、全ての子供の意欲と技能を高める指導法や教材を選定していくことがリコーダー指導において重要であることが分かった。

イギリス式とドイツ式の長所短所は以下の通りである。

【イギリス式】

<長所>

- ・全体的に音程が安定している
- ・様々な大きさのリコーダーに対応できる
- ・様々な調の楽曲に対応できる

・派生音が容易に出せる

<短所>

・「ファ」の運指が複雑である

【ドイツ式】

<利点>

- ・「ファ」の運指が容易に押さえられる
- ・派生音を含まない楽曲は容易に演奏できる

<問題点>

- ・全体的に音程が不安定である
- ・派生音になると運指が複雑化する
- ・他のリコーダーに運指を対応できない

問題点の多いドイツ式と比較し、イギリス式は「ファ」の運指を克服することができれば、安定した音程、運指の応用等、有用性がある。そこで、「ファ」の運指を容易に習得できる指導について実践を試みた。

3 イギリス式ソプラノリコーダー授業実践

① 授業実践1

児童が苦手意識をもつ、「ファ」の運指の習熟を図る授業を、第3学年におけるソプラノリコーダー指導で実践を試みた。児童のつまずきの実態、習熟について、抽出児の演奏、言動、振り返りの記述から検証した。対象は令和2年度、新潟大学附属長岡小学校、第3学年（1組35名・第3学年2組35名・合計70名）で、「リコーダーとなかよし」という題材で、新潟大学4年生 金澤伊織（現・十日町市立田沢小学校教諭）が授業を行った。

教材選定は、「ファ」を中心とした運指が容易に習得できる楽曲を中心に選定した。

「森のささやき（抜粋）」（譜例1）

4小節から成る非常に短い楽曲である。1のパートは「ソラシ」の3音で構成され、2のパートでは、音名は異なるもののリズムが1のパートと同じで、リズム面でつまずき恐れが少ない。3のパートは音の移動が少なく、運指面でつまずきが起きにくくなっている。スタッカートやリズムの練習にも取り組めるようになっている。4のパートは「レ」と「ソ」の繰り返しで構成されており、他3つに比べるとやや難しい。指孔を塞いだり、離したりする練習として効果的である。このように各パートによって特徴が大きく異なり、段階的に学習することが可能である。また、これら4つのパートを一緒に演奏すると一つのアンサンブル曲として成立する。一つのパー

トが4小節と短めであることで、授業毎に一つの曲を吹けるようになったことへの成果も感じやすい。このような点を考慮し、本実践の教材曲として採用した。

森のささやき

作曲 金子健治 V



譜例1 「森のささやき」冒頭

「リーデルシャッツ」(譜例2)

右手を用いた運指の学習用として用いた。ドイツに伝わる楽曲であり、金子健治がリコーダー用に編曲した。金子はこの楽曲について、元々は軽快な曲であるがゆったりとしたテンポで演奏することを勧めている。一般にイギリス式リコーダーが避けられる理由の一つとして「ファ」の運指を押さえることへの困難さがある。この楽曲は曲が「低いド」から「ファ」に移るところから始まる。この順序であれば右手中指を空けるだけで「ファ」を吹くことができるため、冒頭から児童が混乱することのないよう作られている。ただし、本楽曲は少々長めに作られているため、本実践では冒頭から4小節のみ抜粋し用いた。また、2つのパートから構成されているため、本実践では行っていないが、右手の運指を用いたアンサンブル学習用としても活用できる。

リーデルシャッツ

ドイツ曲/金子健治 編曲



譜例2 「リーデルシャッツ」冒頭

「ノスタルジックエア」

授業導入時における演奏披露で用いる。この楽曲は日本を代表するリコーダー奏者である金子健治氏によって作曲された。大人だけではなく、リコーダーアンサンブルに力を入れている小中学校でも演奏される機会が多い。ソプラノ、アルト(またはソプラニーノ)、テナー、バスの4本編成で作られており、総演奏時間は3～4分程度である。ゆったりしたテンポとその美しい旋律からまさに郷愁を感じさせる一曲である。大きさの異なるさまざまなリコーダー

の音色を児童に感じてもらうために選択した。また、学校に楽器があり、かつ、児童がイギリス式リコーダーで学習をしていればこうしたさまざまなリコーダーに触れて、アンサンブル演奏することが可能である。

授業のねらいは、リコーダーの音色に親しみ、簡単な楽曲を演奏する活動を通して、児童が自信をもってリコーダー演奏に取り組むことができるようにすることである。

授業計画を表6に示す。

表6 「リコーダーとなかよし」授業計画

	学習活動	留意点
1 時 限	<ul style="list-style-type: none"> 様々なリコーダーの音色に親しもう。 ・ソプラノからバスまで様々な大きさのリコーダーを提示し、実際にアンサンブル演奏を行うことでリコーダーへの興味関心を深め、活動への意欲を高める。 ・タンギングや息の入れ方をイメージしたり、運指を確認したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が普段使う言葉でタンギングの「トゥ」に変換することで、イメージがつかみやすいように工夫する。
2 時 限	<ul style="list-style-type: none"> 左手を使った運指を使って曲を吹いてみよう。 ・運指やタンギングについて復習する。 ・「森のささやき」の1パートを練習する。 ・教師と一緒に合わせて演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心して楽曲に取り組めるよう、音名や指番号を予め楽譜に書いておく。
3 時 限	<ul style="list-style-type: none"> アンサンブルに親しもう。 ・「森のささやき」の1, 2パートを練習する。 ・2つのパートを同時に演奏し、音の重なりや響きを味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらのパートを演奏するか、児童に選択させる。
4 時 限	<ul style="list-style-type: none"> 右手を使った運指を練習しよう。 ・右手を用いた「ドレミファ」の運指を学習する。 ・「リーデルシャッツ」に挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運指の指移行がスムーズに行えるよう「ミレドファ」の順に運指を学習する。 ・「ファ」は「ド」の状態から中指を上げるだけで吹けることをポイントとして提示する。

授業の実際と児童の変容(抽出児Aの様子から)について、授業者の演奏する「ノスタルジックエ

アー」を鑑賞し、リコーダーの独特の音色に興味関心を示す児童が多かった。第1時、タンギングの学習において、意欲的に活動する様子が見られた。言葉をタンギングに変換する際には、笑顔を見せながら楽しそうに学習に取り組んでいる様子であった。事前に他の児童と運指を確認する時間を設けたことで、正しい指使いで吹くことができていた。

第2・3時の「森のささやき」は、A児は最後まで集中して練習していた。5分間のペア練習の際にも集中して練習を続け、合わせ練習でも最後まで吹き切ることができた。

第4時では、右手を用いる運指を「ミ」から学習したことで、大きく混乱することなく適切な位置に指を持っていくことができていた。しかし、適切な孔位置で押さえているにもかかわらず、「低いド」の音が出ないことに苦戦している様子であった。確認すると足部管の位置がずれており、小指が孔を押さえられていない状態であった。児童のリコーダーの組み立て方（特に足部管の向き）には注意を払う必要がある。「リーデルシャッツ」では、あらかじめ「低いド」から「ファ」への移行練習を交互に行っていたため、楽曲冒頭から難なく吹くことができていた。「ファ」から「ソ」への移行は少々難しかったようであるが、ペアでの練習を取り入れた、合わせ練習でもスムーズに吹くことができた。演奏後には笑顔を浮かべ、曲が吹けたこと充実感を感じている様子が見えた。

第4時終了後、A児は振り返りに「冬休みに全然練習してなかったし、前習った音もあまり覚えてなかったけど、友達に教えてもらって吹けた。右手の音はまだ苦手。」と記述した。教科書教材を活用した練習では、リコーダーの吹き方に苦手意識をもっていたA児であるが、本実践ではスムーズな運指の習得ができた。

運指指導順による習熟の違いについて観察した。1組は、高い音から「レ・ド・シ・ラ・ソ・ミ・レ・ド・ファ」の順、2組は「レ・ド・シ・ラ・ソ・ファ・ミ・レ・ド」の音階順に指導をした。音階順に指導した2組は、運指に困難を要したが、「ファ」を最後に学習するようにして指導した1組は、スムーズに習得することができた。さらに、「ファ」は低いドの位置から「中指を上げるだけ」という言葉がけにより、スムーズに運指を習得することができた。このことから、運指の指導順、教師の言葉がけにより、技能が獲得されることが分かった。

リコーダー導入時では、運指のつまずきを分析し、

楽曲選定をしていくことが重要であること同時に、運指の指導順や教師の指導技術を高めることが大切である。今後、導入初期からのリコーダー学習プログラムとして、意欲喚起と技能習得を目指した学習を展望したい。

授業実践②

練習方法や楽曲を選定し、興味関心を高めながら習熟を図る学習プログラムを考案し、第3学年におけるソプラノリコーダー導入指導で実践を試みた。児童のつまずきの実態、習熟について、抽出児の演奏、言動、振り返りの記述から検証した。対象は新潟大学附属長岡小学校、第3学年（1組35名・第3学年2組35名・合計70名）で、「リコーダーとなかよし」という題材で、新潟大学附属長岡小学校平出久美子教諭が授業を行った。

令和2年度の実践を基に、楽しみながら容易にリコーダーの運指を習得できると考え、教材選定をした。教材選定は、技能を容易に習得する為に隣り合う指使いを基本とすること、リズム習得を削減し、吹き方に焦点づける為に、児童にとって馴染みのある楽曲を使うことを視野に入れた。提案する教材は、以下の通りである。

「いちばんぼしみつけた」（譜例3）

「ラ・シ」の習熟を目的とする。児童に馴染みのある童謡の一節の為、旋律を口ずさみながら覚えることができる。「シ」と「ラ」2音のみの編成で、始めて楽曲を演奏する児童にも容易に運指を習得することができる。



譜例3 「いちばんぼしみつけた（抜粋）」
文部省唱歌・信時 潔 作曲

「ゆかいなまきば」（譜例4）

「ソ・ラ・シ」の習熟を目的とする。教科書教材であり、歌唱と合わせて旋律を習得することができる。歌詞の「シシラソー（イーアイアイオー）」の部分のみリコーダーで演奏する。「シ」（人差し指）、「ラ」（中指）、「ソ」（薬指）の順に上から指を下ろす運指の為、入門期の児童が容易に習得することができる。

ゆかいなまきば

小林幹治 作詞
アメリカ民謡

♩=96

譜例4 「ゆかいなまきば」

「夕やけこやけ明日天気になあれ」わらべうた(譜例5)
「ソ・ラ・シ」の習熟を目的とする。「ラシラソ」の順に編成されており、隣り合う指を順番に動かす為、3音でも容易に習得することができる。2小節目から3小節目までは、同じ音が続いている為、タンギングの練習にも生かすことができる。

譜例5「夕やけこやけ明日天気になあれ」わらべうた

「たこたこあがれ」(譜例6)
「レ・ド」の習熟を目的とする。裏孔の開閉のみの楽曲の為、始めて裏穴の練習をする児童にも容易に習得することができる。わらべうたの一節で、児童にとって馴染みのある旋律であり、容易に覚えることができる。

譜例6 「たこたこあがれ」わらべうた

「はじめてのアコムCMソング」(譜例7)
「ソ・ラ・シ・ド・レ」の習熟を目的とする。児童にとって馴染みのあるCMソングの一節である。裏孔の開閉と、「レ」から「シ」への指の移動がやや難易度が高い。容易な運指に慣れてきた児童にとって、練習意欲を高める楽曲である。

譜例7「はじめてのアコムCMソング」鈴木崇作曲

「よろこびの歌」(譜例8)

「ソ・ラ・シ・ド・レ」の習熟を目的とする。左手の運指を習熟した児童が、始めて挑戦する8小節の楽曲である。3学年の児童が、2学年時の音楽会で鍵盤ハーモニカで演奏した楽曲であり、旋律を十分把握している。運指は、隣り合う「シラソ」と、やや複雑な「シドレ」が混在しており、左手の習熟に適している。

よろこびの歌

譜例8「よろこびの歌」ベートーヴェン作曲

「なべなべそこぬけ」

「ファ」の習熟を目的とする。「ドレミファ」の順に運指を学習した後、左手と右手を交互に練習できる楽曲である。低学年時に授業の中で楽しんだわらべうたの一節であり、児童が旋律を口ずさみながら練習することができる。「ソ」から「ファ」への移動が容易である為、「ファ」の運指の入門期に適している。

譜例9 「なべなべそこぬけ」わらべうた

リコーダー学習事前調査

リコーダー学習前の学習意欲について、第3学年70名を対象に、アンケート調査を実施した。結果は以下の通りである。

表7 アンケート結果

Q.「リコーダーの学習は楽しみですか」

	とても楽しみ	楽しみ	あまり楽しみではない	楽しみではない
1組	29	6	0	0
2組	23	12	0	0

Q.「リコーダー学習でやってみたいことは何ですか」

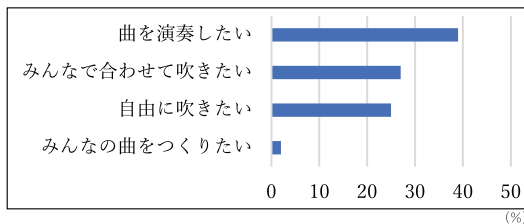


図3 アンケート結果

リコーダー事前調査の結果、リコーダー学習を楽しみにしている児童が100%であった。この意欲を継続していく学習計画を立てることが大切である。リコーダー学習でやってみたいことは、「曲を演奏したい」「みんなで合わせて演奏したい」「自由に吹きたい」の順に多く、曲を演奏したいだけでなく、自由に吹いてみたい子供も多いことが分かった。曲を吹く、合わせる、自由に吹くことをプログラムに取り入れ、子供の意欲を大切にしたい指導を目指した。

授業のねらい

リコーダーの吹き方を練習する中で、息の入れ方、指使いに気を付けて吹くとよいことに気づき、きれいな音色でリコーダーを吹くことができる。

授業構想（表8）

本題材は、リコーダーを初めて練習する第3学年の児童を対象とした、12時間のリコーダー学習プログラムである。令和2年度の実践から、児童は技能を獲得できた際、達成感を味わい、リコーダー演奏の楽しさを感じることが分かった。そこで、リコーダーに興味関心が高い入門期に、意欲喚起をしながら技能を習得できる活動を取り入れることで、リコーダーを愛好する精神を育みたいと考えた。

リコーダーとの出会いの場面では、本物のリコーダーを見たり触れたりする場を設定する。児童は、一人一人が手にしているソプラノリコーダーよりも大きなアルト・テナー・バスリコーダーの実物を見ると、リコーダーに憧れをもち、興味関心が一層高まるであろう。実際に触れたり、映像で音を確かめたりしながら、さまざまな種類のリコーダーがあることを知り、リコーダーを吹いてみたいと意欲を高めてくる。そこで、運指や吹き方等にこだわらず、自由に吹く場を設定する。リコーダーは「小鳥のように歌う」という意味があることを伝えると、児童は小鳥のさえずりを意識して吹き始めるであろう。リ

コーダーの音色にこだわりを持ち始めてきたところで、校庭の100年の森（屋外）に出て、小鳥になりきって自由にリコーダーを吹く場を設定する。児童は、楽しみながら活動し、リコーダーに愛着をもつ姿を期待した。

リコーダーに愛着をもたせ、十分に意欲が高まった所で、技能習得の学習に入る。リコーダーの持ち方（右手・左手）、押さえ方（指の腹）を学び、息を吹き込むとピーッと音が鳴ってしまう。その際、児童はきれいな音が出る息の入れ方に目を向けてくるであろう。そこで、息の入れ方をイメージしやすいように、「リレーのバトンのようにまっすぐ」「ろうそくの火がゆれないように」「シャボン玉がわれないように」「タンギング、トゥットゥ」など、可視化・イメージ化して指導する。指の押さえ方も、「指の腹、お肉でプニッ」「指の真ん中に穴の跡が付く」と擬音語や視覚に訴える指導をする。このことにより、言葉だけでは理解できない技能習得をイメージや視覚と関連付けて指導する場を設定することで、容易に技能を習得していくことを期待した。

ステップ1の左手の指導では、令和2年度の実践から、指の移動が大きい時に児童が困難さを感じてしまうことや、旋律が未習得な楽曲はリズムが取れないことが分かったため、入門期においては、隣り合う運指を基本とすること、児童にとって馴染みのある楽曲を用い、旋律を習得する必要なく、息の入れ方や指使いに特化した練習ができるようにした。段階的に指使いを増やしていくことで、難なく技能を習得していくことを期待した。

ステップ2の左手の習得では、令和2年度の実践を生かし、「ドレミファ」の順にロングトーンで練習する場を設定する。「ミ」から「ファ」へと「中指を上げるだけ」の声掛けで容易に「ファ」の運指を習熟していく。さらに、隣り合う指を中心に演奏する楽曲を選定することで、イギリス式の「ファ」の運指を用いた楽曲を演奏できるようになることを期待した。

表8 「リコーダーとなかよし」授業計画

	学習活動	留意点
1時間目	○鳥になってリコーダーを吹こう ・鳥になって、森で自由に吹く	・屋外で、自由にリコーダーを吹く楽しさを味わわせる。

リズムでまねっこリレーをする。次に、教師の役割を希望者が一人ずつ行う。希望者がほぼ全員に増えたところで（自信がついたところで）学級全体で一人→全員→一人→全員というように、一人ずつ順番に教師役になる。その際、教師役になった子供の個別評定を行い、瞬時によさを伝えたり、つまずいている所を指導したりする。B児は、指孔を塞ぐことに課題があり、「お肉で押さえてごらん」と伝え、きれいな音色が出て笑顔をみせた。子供にとってイメージしやすい言葉を使い、リズムリレーをすることにより、自分のリズムをみんなが吹いてくれる楽しさと、教師からの称賛と指導により、確実な技能向上と意欲喚起につながった。B児は、授業の終わりに「早く曲を吹きたい」と話し、楽曲を吹くことへの意欲を高めていった。



図4 可視化・イメージ化による指導（掲示物）

【息の入れ方と指の押さえ方を意識して左手の練習をするB児（6時間目）】

「たこたこあがれ明日天気になあれ」の楽曲練習では、後半の「明日天気になあれ」のリズム習得が困難であった。歌う、階名唱、指の確認の順でリズムを指導したが、B児は後半になると手が止まってしまった。他の子供も、後半のリズムにつまずきが見られた。教師と一緒に歌うと、それに合わせて指を動かし、吹くことができた。B児は隣の子供に、「ソの薬指に隙間ができていよ。」と指摘されると、すぐに指の位置を動かし、正しい音が出せるようになった。息の入れ方は、これまでの学習で十分習得していることが伺えた。きれいな音色で吹くことができ、「やったあ。」と明るい表情で達成感を味わっている様子であった。

【「ファ」の運指を習得したB児（11時間目）】

R2の実践を生かし、ドレミファの順に指導した。「中指を上げるだけ」という言葉がけをすんなり受け入れ、指使いが難しいと話さず子供はいなかった。

B児は、中指を上げると同時に薬指に隙間ができてしまった。「ド」の状態を確認し、中指を上げることができると、薬指もふさぐことができた。きれいな音色で吹くことができ、「ファもできた。」と満面の笑みを浮かべ、技能を習得に満足したB児の姿である。

結果

リズムリレーつまずき分析（全体）

リズムリレー時の、階名ごとに息の入れ方、指使いにつまずきが見られる子供、つまずきの傾向は、以下の通りである。指導初期の「シ・ラ」は、息が強すぎたり、指の腹ではなく指先で押さえたりしていることにより隙間が空く子供が多い。「ソ」は、塞ぐ指孔が増える為、空間ができることが課題であった。「ド」は、人差し指と中指の運指間違い、「レ」は、親指を離すことにより中指が不安定になっていた。親指を裏孔の下で支えることを指導すると、安定感ある持ち方で吹くことができた。

表9 「リズムリレー」つまずき分析

（全体・単位人）

階名	息	指	つまずき
シ	10	12	息の入れ方が強い・指先で押さえている
ラ	10	12	息の入れ方が強い・指先で押さえている
ソ	8	10	4穴のどこかに空間ができる
ド	0	4	人差し指と中指の運指間違い
レ	2	1	親指を離し、中指が不安定

楽曲ごとのつまずき分析（全体）

リズム習得に困難を要した楽曲は「夕やけこやけ明日天気になあれ」である。後半の「明日天気になあれ」のリズムが習得できず、指が止まってしまう児童が数名いた。その為、繰り返し歌ったり、階名唱したりして、リズムを習得した。リズム習得済の楽曲に修正する必要がある。息の入れ方や指使いなどの技能面以外で、「はじめてのアコムCMソング」は、子供たちはとても楽しみながら吹いていた。しかし、「レ」から「シ」への移動が困難さを感じ、「シラソ」のリズムが速くなることでつまずいたりする子供が見られた。意欲喚起の面では有効であるが、技能習得に関して、楽曲や演奏の速さを変える等の再検討が必要である。「よろこびの歌（抜粋）」は、昨年度の音楽会で鍵盤ハーモニカ演奏をしている。リズム習得済で、子供たちも意欲をもって取り組ん

ていた。「シドレ」の運指につまずく子供がいたが、この楽曲を吹きたいという意欲が高く、何度も挑戦する姿が見られた。子供にとって馴染みのある楽曲は、演奏したいという意欲を高めることに有効である。

表10 「リズムリレー」つまずき分析

(全体・単位人)

楽曲	運指	リズム習得	息	指	つまずき
いちばんほしみつけた	ラシ	○	3	8	息が強い、指の腹で押さえていない
ゆかいなまきば	ソラシ	◎	5	6	ソの運指のどれかに隙間が空く
夕やけこやけ明日…	ソラシ	△	5	11	後半のリズム習得ができない、ソ運指のどれかに隙間が空く
たこたこあがれ	ドレ	○	1	1	ドの運指が中指ではなく、人差し指で押さえている
はじめてのアコムCM	ソラシドレ	◎	2	2	レーシの移動が困難
よろこびの歌	ソラシドレ	◎	2	2	シドレの移動が困難
なべなべそこぬけ	ファ	○	2	5	息の入れ方が強い、右手の運指に隙間が空く

楽曲ごとのつまずき分析（抽出児）

B児にとって、リズム習得が困難であった楽曲は「いちばんほしみつけた」「夕やけこやけ明日天気になあれ」「たこたこあがれ」であった。リズムが未習熟な箇所に来ると指が止まり、隣の子供の指を見ながらリズムを合わせて吹いていた。全体の様子と比較し、楽曲やリズム習得時の練習方法について再検討が必要である。B時は、息の入れ方は「シャボン玉」と確認しながら吹き、習得できているが、指の腹で押さえること、全ての指孔を確実に塞ぐことにつまずきがあることが分かった。隣同士で毎時間確認しているので、B児本人も指孔の塞ぎ方を意識して、常に「お肉でブニッ」とつぶやきながら指の腹を確認して練習する姿が見られた。可視化・イメージ化が有効であった。

表11 楽曲ごとのつまずき分析（抽出児）

楽曲	運指	リズム	息	指	つまずき
いちばんほしみつけた	ラシ	△	○	○	リズム習得ができていない
ゆかいなまきば	ソラシ	◎	○	×	ソの運指、薬指に隙間が空く
夕やけこやけ明日…	ソラシ	△	○	×	リズム習得ができていない、ソ運指
たこたこあがれ	ドレ	△	○	○	リズム、ドの運指
はじめてのアコムCM	ソラシドレ	◎	○	△	レーシの移動
よろこびの歌	ソラシドレ	◎	○	△	シドレの移動
なべなべそこぬけ	ファ	○	△	△	息の入れ方、小指の位置のズレ

抽出児の振り返り

毎時間の振り返りでは、自由に吹く段階では、「強く吹くと高い音が出る」と、音楽を形づくっている要素に気付いていた。「リレーのバトン」「シャボン玉」「穴を肉でふさぐ」など、可視化・イメージ化した言葉を使って振り返りを記述していた。また、「仲間に教えてもらって吹けるようになった。」「前の時間よりできるようになって嬉しい。」など、仲間と共に上達していく喜びを実感していることが伺える。指の動かし方に困難を感じても、練習して技能を獲得することにより達成感を味わい、意欲が向上する姿が見られた。

表12 抽出児（B児）の振り返り記述

楽曲	運指
鳥になって吹こう	鳥になって吹いてみたらすごくいい音が出て楽しかった。強く吹くと、高い音が出て、鳥みたいになった。
リコーダーの吹き方	リレーのバトンと、シャボン玉で吹いたら、とてもいい音が出て楽しかった。
いちばんほしみつけた	最初はピーピー鳴ったけど、吹けた時楽しかった。人差し指を動かすことが難しかった。穴を肉で塞げばできることが分かって嬉しかった。
ゆかいなまきば	シトラが前よりうまくできてとても楽しかったし、嬉しかった。
夕やけこやけ明日天気になあれ	ソの音が穴をふさげてないことを、Bさんが教えてくれて、肉で塞いだらちゃんという音が出てよかった。
たこたこあがれ	ドとレが簡単だったから、ピーピーいなくて楽しかった。
はじめてのアコム	指を速く動かすのが難しかった。始めのドとレはうまくできて嬉しかった。
よろこびの歌	指を速く動かすことが難しかった。次は指の動かし方を練習して上手になりたい。

4. 考察

リコーダー学習の導入では、自由に吹く体験をすることで、十分意欲を高めた後、吹き方の指導をすることで学習意欲が高まっていくことが分かった。子供のつまずきを分析すると、息の入れ方、指の押さえ方、リズム未習得に分類されることが明らかになった。リズムリレーの中で、個別評定し意欲を向上させると共に、子供が何につまずいているのか、教師が分析すると共に、子供自身の自覚を促すことで改善していくことが大切である。さらに、楽曲は、リズム習得済の短い楽曲を多数練習し、可視化・イメージ化による指導が有効である。「ファ」の指導順や言葉がけにより、バロック式をスムーズに習得できる。今後の課題として導入時に有効である、リ

ズム習得済の短い楽曲を再検討し、四分音符や二分音符中心の楽曲選定すること、「ファ」の運指指導や可視化・イメージ化を継続指導し、全校で取り組むことで学びの連続性をもたせ定着につなぐ必要がある。子供が学習意欲を高め、楽しみながら確実に技能を獲得するために効果的な導入指導法を全県に発信していくことが自身の役割である。

5 成果と今後の課題

今回の実践研究を通して、リコーダーの楽曲や指導の改良が学習効果をあげていることが改めて実証された。日本の他地域の研究者からは、新潟地区のイギリス式の普及が高いことを驚きの目を持って見られた。しかし、その新潟でさえイギリス式の普及率が下がりドイツ式に代わることは、新潟でもリコーダーを単なる教育楽器としてしか見ていない証拠でもあり、たいへん残念なことである。リコーダーはJ. S. バッハ「ブランデンブルグ協奏曲第4番」に見るように、オーケストラを従えた堂々たるソロ楽器であり、バロック以前には音楽の主役であった。近年もヒンデミットやカヴァレフスキーが優れたリコーダーアンサンブル曲を残している。リコーダーの目指すべき頂点に少しでも近づくのであればドイツ式を選択は本来あり得ないはずである。

今回は導入時の研究を中心に実線研究を行ったが、今後は中学校までの視野、すなわち芸術楽器としてのリコーダーを視野に入れた実線研究を継続する。

文献

- ・金子健治、『ソプラノリコーダー指導曲集 いきいきリコーダー』、全音楽譜出版社
- ・山中和佳子、庭田光晴（2012）『小学校第3学年におけるリコーダー出合いの指導と教育評価』音楽教育実践ジャーナル vol.10
- ・平井李枝（2017）『学習者の苦手意識を解決するアルトリコーダー指導法の研究—中学生への指導を中心に—』宇都宮大学教育学部教育実践紀要第3号
- ・小原光一、飯沼信義、浦田健次郎監修『小学生の音楽3』教育芸術社2020
- ・新実徳英監修『小学音楽 音楽のおくりもの3』教育出版2020